

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	玄関に鍵をかけないで過ごしてはいるが、安全面から不安な面もある。外部からの自由な出入りや利用者様の離設の危険性など課題も多い。	玄関の鍵はかけないことは今後も継続していくと共に、身体拘束にあたる行為、言動は行わない。	身体拘束についての研修を継続し、職員間での共通理解を深めていく。また転倒や転落の危険性のある方や離設の可能性のある方の見守り強化、センサーマットの導入、ドアに鈴を付ける等利用者様の動向を把握する工夫を行うと共に面会者や地域の方への対応が全職員統一した形で実施できるよう指導していく。	3ヶ月
2	10	家族に全職員が統一した対応ができていない。管理者や主任、ベテラン職員と新人職員ではやはり差が感じられる。申し送りや伝達、情報の共有にばらつきがある。	家族への伝達や意向確認、急変時の連絡など全職員が同様の対応ができるようになる。	職員間での対応に差があるのは仕方のないことだが、家族は区別しているわけではない。情報の共有や正確な伝達など意識的に訓練を行っていくことにより信頼を得ていく。そのためには接遇や記録、伝達方法、報告、確認といった意識付けを内部研修にて植え付けていく。	6ヶ月
3	33	急変時の対応等知識としては持ち合わせているが、実践力に不安がある。	緊急時の対応マニュアルに沿って全職員が共通した対応が可能となる。	マニュアルを覚えるだけでなく、多くの事例に沿って検討し、考えていく機会を継続的に行っていく。また緊急時の必要備品を整理し、救急隊が到着するまでに必要な処置ができるよう訓練を行い、手順や使用方法などを身に付けていく。	6ヶ月
4	46	内服薬についての知識が不足しているため、与薬対応が事務的となっていることから危険性がある。	利用者様の状態に合わせた効能や副作用についての知識を習得し、誤薬等を予防する。	薬名や効能、副作用の知識を得る研修を行い、確実な内服につなげていく。また、処方箋の確認、内容の把握を複数職員と共に行っていく体制を作る。	6ヶ月
5	53	自宅より馴染のあるものや使い慣れたものを持ってきていただき、落ち着いた環境で生活できるよう工夫を行っているが、防火対応ではない物もあり、消防法上指導を受けることもある。	防火用の備品に変更し、火災予防を図る。	個人持ちの備品を防火用に変更していくようご家族様へ働き掛けていく。消防法上の説明と安全管理の徹底を図り、利用者様の安全を図ると共に過ごしやすい環境を整えていく。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。